

高齢者交流、子育てのための街かどサロン「よってかれ家」の設置で来街者増加

大山町商工会

機関名	大山町商工会		
所在地	富山県上新川郡大山町上滝 3 8 7 - 4		
電話番号	0 7 6 - 4 8 3 - 1 4 2 0		
地域概要	(1)管内人口 12 千人	(2)管内商店街数 6 商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1 商店街	(2)会員数 21 商店	
	(3)空店舗率 20%	(4)大型店空き店舗数 0 店	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. <u>近隣型商店街</u>		

【事業名と実施年度】

平成 15 年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業（高齢者等交流施設）

- ・ 空き店舗を活用した街かどサロン
「よってかれ家」の設置

総事業費

9,723 千円

【事業実施内容】

1. 背景

富山県大山町商店街は、隣接する富山市への購買流出が年々増加する等の理由により、来街者が減少し、売上の減少が進み、近年廃業する店舗が増加している。地域の活性化には商業の活性化が不可欠であり、商店街が地域コミュニティの核となって人々が集い、交流できる賑わいの場としての役割を果たしていくためには、地元の関係団体と協力しながら積極的に活性化策を講じていく必要があった。そこで、街なかに賑わいを呼び込む拠点として商店街にコミュニティ施設を整備し、消費者の中でも特に高齢者が集う憩いの場として活用することを目的とした。



大山町の位置（大山町HPより）

2. 事業内容

商工会が空き店舗（約 75 坪）を借り上げ、改装し、地域住民、特に高齢者が気軽に利用できるコミュニティ施設を設置し、子育てサロン、健康相談、ふれあい会食会や各種体験教室等の事業及び商店街活性化対策事業を行った。

(1) 事業概要

- ・園芸・パソコン等体験教室の開催
- ・健康相談・健康講座等の実施
- ・会食会の開催
- ・子育てサロンの開設
- ・作品展示会・映画祭等の開催
- ・商店街催事情報やリサイクル情報の提供

(2) コミュニティ施設施工期間

平成 15 年 8 月 1 日～9 月 30 日

竣工式：10 月 11 日

(3) 各事業の内容

①いきいき大山「食まつり」

施設の竣工に合わせて、大山町中央商店街を中心とした、いきいき大山「食まつり」を開催した。

日時：平成 15 年 10 月 11 日 12 時～16 時

場所：大山町中央商店街

内容：お茶会、絵画展示会、ふれあい健康相談、特産品・季節野菜の販売、手話・展示体験、商工会青年部女性部によるベンチャーキッズチャレンジ、等

②子育てサロン

幼児が楽しめるリズム体操や歌、紙芝居等の他、会食会を開催し親同士の交流もはかった。

登録者数：延利用組数 192 組

延利用者数 384 名

③映画祭の開催：高齢者及び児童を対象とし月 2 回の映画祭を開催した。

11 回開催 鑑賞者数 400 名

④各種体験教室の開催

- ・森のクラフト・クリスマスリース作り
- ・新そば打ち教室
- ・園芸教室「コンテナガーデニング」(2 回)
- ・森のクラフト・ミニ門松作り
- ・パソコン教室 (2 回)
- ・園芸講座

⑤各種展示会の開催

展示コーナーにおいて、児童・生徒の作品展示、絵画、写真等の展示会を開催した。



街角サロン「よってかれ家」



食祭り

⑥ふれあい会食会

高齢者を中心として計4回会食会（そば・おにぎり・漬物会食会、ぜんざい会食会、等）を開催し、交流を図った。

⑦健康相談・健康講座の開催

高齢者を対象に、いきいきサロンを開設し、「ふれあい健康相談」、音楽療法「ドレミで健康」、生活の癒し「アロマで健康」、出前ふれあい講座「軽スポーツ講座」等を開催した。

⑧情報の提供

センター内において商店街情報や町内催事の告知及び町内観光情報の提供を行った。

⑨お茶の会

本や紙芝居により楽しい話をする「お話の会」を毎月開催した。

【 効 果 】

1. 来街者の行動

設置したコミュニティ施設に6ヶ月で7千人の来場者があり、以前に比べると来場者が増加した。

(来場者数)

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開場日数	18日	26日	24日	23日	25日	26日	142日
来場者数	1,057人	1,246人	1,067人	839人	1,309人	1,170人	6,688人
特定要因	開店日 300人		餅つき200人 福引会150人			(推定)	1日平均 47人

2. 商店街の組織

コミュニティ施設を設置したことにより、活動を休止していた商店街のおかみさん会が復活し、月2回開催される映写会にあわせて来場者に食事の提供を行っている。

3. 商店街の認知度

コミュニティ施設への来場者は町外からも多数訪れ、商店街の認知度が高まった。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

現在補助事業にて施設運営をおこなっているが、補助事業が終了した場合の施設運営費において商工会で負担していくことは非常に困難であると考えられることから、運営方法を検討しているがなかなか良い方法が見出せないのが現状である。



森のクラフト

2. 店舗経営者に対する支援

当地区は高齢者率が高いことから、コミュニティ施設利用者も必然的にシルバー層の利用が多いため、商店においても取扱商品においてシルバー向け商品の充実を指導しているがなかなか対応してもらえていないのが現状である。

3. 商店街との連携

「よってかれ家」は、地域のコミュニティ施設として来場者数や利用者の意見等から一定の成果は認められるが、商店街全体の賑わいを取り戻すまでには至っていないのが現状である。今後商店街が「よってかれ家」の利用者をどう商店街に回遊させるかを商店街と連携を図りながら研究していく必要がある。

4. 人的体制

より多くの人々に施設を利用していただくためには、来場者の意見を十分に受け入れながら、利用者と一体となって施設の管理運営を行っていくことが必要である。また、施設を利用しての数多くの事業を実施していくには、人手も必要とされることを考え合わせると、商店街が中心となって町内関係団体やボランティア団体との連携強化を図っていく必要がある。地域高齢者や「よってかれ家」の利用者へのサービスに対応すべく、高齢者の生活・健康をサポートすべき事業等として何ができるのかを調査研究し、事業化に向けて取り組んでいく必要がある。

5. ガラス工房との連携

平成15年11月、商店街に隣接してガラス工房がオープンしたこともあり、今後ガラスの体験教室や展示会の開催等を踏まえて工房と商店街の回遊性をどういう形で構築していくか検討しなければならない。

6. 学生との連携

富山国際大学や富山国際職藝学院があり千数百人の学生がいることから、学生との交流を積極的に図るとともに、この施設の店舗行事に学生がどういう形で参画してもらえるかを検討していく必要がある。

【事業の実施ポイント】

施設内事業を実施していく場合に商工会だけでは集客力が弱いため、当会では社会福祉協議会・シルバー人材センター等地区において集客能力のある団体と連携を図りながら事業を計画し実施している。

【関連URL】

大山町商工会 www.shokoren-toyama.or.jp/~ooyama/index.html

街かどサロンよってかれ家 www.shokoren-toyama.or.jp/~ooyama/machikado/set.html